

2019年2月19日

公益社団法人計測自動制御学会

会長 松村 基史 殿

公益社団法人計測自動制御学会

監事 山田 勉

監事 山田 善郎

監事 長谷川忠大



監事監査報告

私たち監事は、2018年度（平成30年度）における会計及び業務の監査を行ったので、その結果を報告する。

1. 監査内容と結果

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類を閲覧し、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録について監査を行った。監査の結果、上記計算書類は公益社団法人計測自動制御学会の収支と財産の状態を正しく示していると認める。
- (2) 業務監査について理事会とその他の会議に出席して業務遂行の妥当性を検討し、2018年度事業報告及び事業報告の附属明細書の内容について照合監査を行った。検討の結果、業務遂行について法令と定款に違反する事実のないことを認める。監査の結果、業務報告書及び事業報告の附属明細書の内容は真実であることを認める。

2. 監査意見

- (1) 2018年度の事業計画は、会長のリーダーシップの下、「SICE ミッションと事業計画」を策定し、4つのミッション（社会貢献、会員への貢献、国際貢献、学協会組織への貢献）を設定、それに伴う中期的課題を定め、より実効性のある2018年度事業計画を決定し実施したことが評価できる。特に、事業計画の「SICEの国際化推進」と「Society5.0におけるSICEプロモーション」について顕著な成果が挙げられたと考える。
- (2) SICEの国際化に向けては、IMEKO2021やIFAC2023などの国内開催に向けて体制、費用、リスク管理について理事会等で議論を深めていることを確認した。費用面では、2018年度から5ヶ年の計画をたて、特定費用準備資金の準備に着手など具体的な対応が評価できる。また、人的連携を図るために、会長、副会長自ら協賛している国際学会へ参加し、人的交流を深めた点が評価できる。
- (3) Society5.0におけるSICEプロモーションに向けて、企画委員会で計画をたて関連部門と連携し、学会誌特集号、AC併設イベントによりプレゼンス向上を図ったことが評価できる。引き続きSociety5.0におけるSICEプレゼンス向上の推進をお願いしたい。
- (4) 2018年度決算は、財務健全化の施策の取り組みの成果として、約3,000万円の黒字に改善したことが評価できる。だが、今年度も、想定以上の業務収入があったことが黒字化に大きく寄与しており、今後も継続的に財務健全化に取り組んで頂きたい。公益事業に関する収支相償については、引き続き健全な運用をお願いしたい。

- (5) 財務改善の1つとして、会長のリーダーシップの下、事務局規模の適正化と事務局の業務効率化を推進したことが評価できる。ただし、SICEの国際化に向けた新規人材の育成や登用などが課題であると認識する。業務効率化は継続して実施することをお願いしたい。
- (6) SICE会員向けの施策として、昨年度に引き続きSICEホームページの拡充を進めていることを確認した。特にSNS利用を活性化するために投稿のガイドラインを策定し、部門と支部の広報担当者、一般会員に示し、一定の規律の中で自由な投稿を促す施策が評価できる。今後コンテンツを拡充し、更なる会員への貢献をお願いしたい。
- (7) 会員数減少は緩やかになってきているが、減少が止まったわけではない。2018年度決算では黒字化しているが、会員数増強のための具体的な施策実施をお願いしたい。

以上